人との出会い
「人間万事塞翁が馬」の豊かな人生を

國分光洋（東京都杉並区）

多くの作家の方々とのお付き合いがあった頃の話です。著名な作家の方々は見識が深いことは確かですが、それよりも人生をどう構築していくかに強い意志を発揮されていることに感銘しました。

我が師の邱永漢さんのこと

邱永漢先生は、半世紀にわたり指南役であった人生の恩人です。卒業して最初に勤めたのが邱永漢事務所でした。私は、広告会社で働くのを希望していました。邱永漢先生曰く、「僕の鞄持ちをして見聞を広めなさい」とのご宣託があり、3 年間の鞄持ちで見聞が広がった兆しがありました。そこで、出版社の有限会社林泉舎を起業しました。ここが、社会人としての人生行路の原点となりました。

先生の経営指南活動を慕って、全国から経営者が相談に見えます。私も、その方達とお付き合いができ、自分の人間的幅が広がった気がします。先生は台湾出身で、日本で脱稿した小説『香港』で第 34 回直木賞を受賞しました。もちろん、経済評論家として八面六臂の活躍でした。

各方面の方々と出会い、そこでの人生行路の交わりは豊かなものになりました。丹波の酒造りの蔵本西山氏と、付き合いがあります。もちろん、先生の長男世悦さんとは、家族付き合いが続いています。

高倉　健さんのこと

高倉さんともご縁ができて、『あなたに褒められたくて』の出版に漕ぎつけました。エッセイスト賞を受賞するという栄誉に浴し、高倉健さんと二人で出席しました。

実は、この原稿を出版社に持ち込んだところ賛成の意見がすくなく、お蔵入りになるところでした。が、ある方の英断で出版できるところとなり、その結果はご存じの通りです。高倉健さんの俳優としてにじみ出ている寡黙で朴訥な人間味が、下手ウマともいえる文章と相まって、読み手に感激をあたえることで版を重ねる大ヒットとなりました。人柄が文章に現れ、洛陽の紙価を高めました。

水上　勉さんのこと

高倉さんの受賞がきっかけで、水上先生ともお付き合いを始めることができました。作品は、オール読物で 2 年間も連載が続きました。先生のご自宅へ原稿をいただきにあがり、締切日近くなのに「これから書くよ」ということがあり、胃腸がひっくり返る気分を味わいました。先生から「風呂に入って行け」といわれたら、目的の原稿は影も形もない時でした。

邱永漢さんは水上先生を大変尊敬していて、ご希望が出て先生の別荘がある長野の勘六山にお連れしたこともありました。先生の体調の関係もあり、その後の出版企画にと、杉本苑子先生を紹介していただきました。水上先生からは、私へは一言「そちらで始めなさい」でした。杉本苑子先生への紹介の手紙では、「國分さんは鍵を掛けなくとも安心の人です」でした。鉈でスパッという感じの紹介で、双方の先生の人間としての信頼関係が出ていました。このような人間関係を構築されているのを、うらやましくも思いました。

水上文学は「女」のテーマが多く、先生自身も女性に惚れっぽい人でした。その当時、大人の社交場に「クラブ」がありました。お供でご一緒できましたが、ホステスと少々話し込むと、チラットこっちを向いて「誰の金で飲んでるんや！」と直截な一言が飛び、浮世の情の機微を痛感しました。

杉本苑子さんのこと

歴史もの作品が特徴であることは、ご存じの通りです。江戸期の『玉川兄弟―江戸上水ものがたり』は力作です。先生とは、取材旅行で日本をあちこち巡りました。そのさなか、文化勲章受賞の報がありました。この祝報は、先生の一番の喜びでした。先生は、ひょうきんなところがありました。歴史ものに関連しての神社の取材で、夕方雨が降り出すと決まって振り向きざま、鬼ババの真似をするのが得意でした。日本には鬼ババはいるけど鬼ジジイはいませんね、と作家の含蓄を見せてくださいました。

横尾忠則さんと荒俣　宏さんとの出会い

水上先生から、『往生要集』を現代語に訳し、地獄絵を横尾さんに描いてもらうという発案がでました。横尾さんと日大の後輩荒俣宏さん、私と 3 名で鳩首会談を重ねました。結論は無理となり見送りとなりました。

豊かな人生を送っています

人と人との結びつきは、自分の努力に加えて運命の力が大きく作用する気がします。過ぎし行路を振り返ってみて、「人間万事塞翁が馬」で豊かな人生体験を得たような気がしていて、今もこれを人生のモットーとしています。